令和7年度宮崎県の国際化に関するアンケート調査の主な結果について（外国籍者分）

〇調査の目的

県民の国際化に関する考え方や意見を把握し、本県の国際化施策推進にあたっての参考にするため。

〇調査の対象

宮崎県在住で18歳以上の外国籍の方

〇調査の対象数

2,000人

〇調査方法

・市町村の協力により住民基本台帳から調査対象者を無作為に抽出し、調査票を郵送。

・調査票の回収は、記入した調査票の返送又はインターネットでの回答で行った。

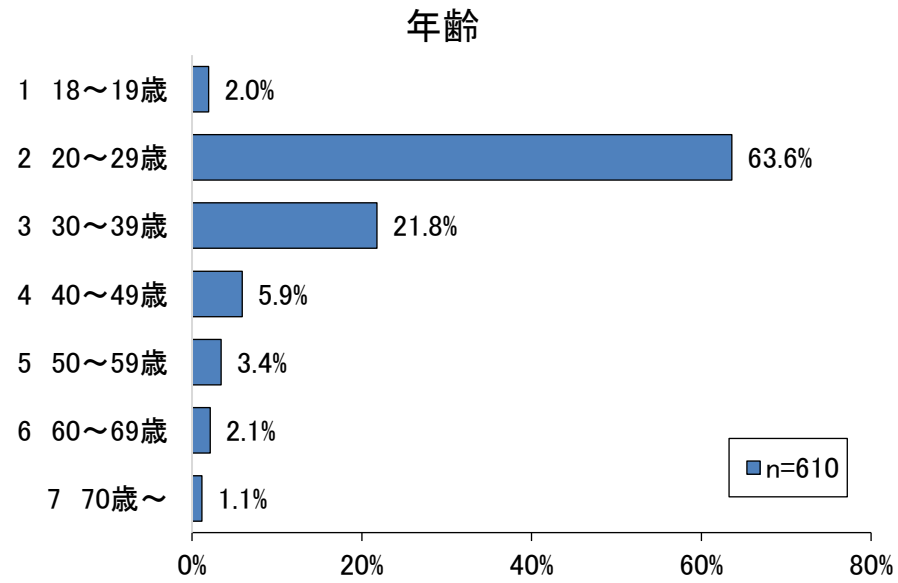
〇調査期間

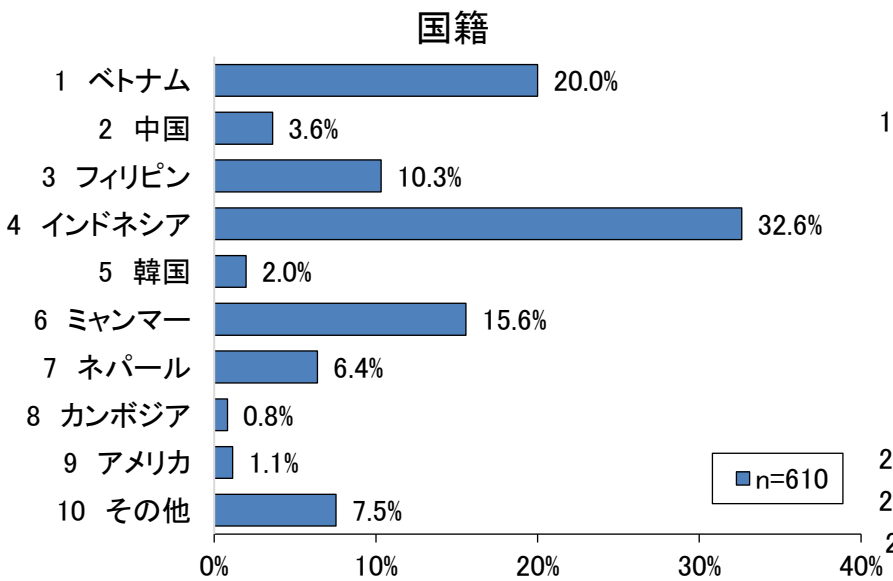
令和8年1月9日～令和8年2月6日

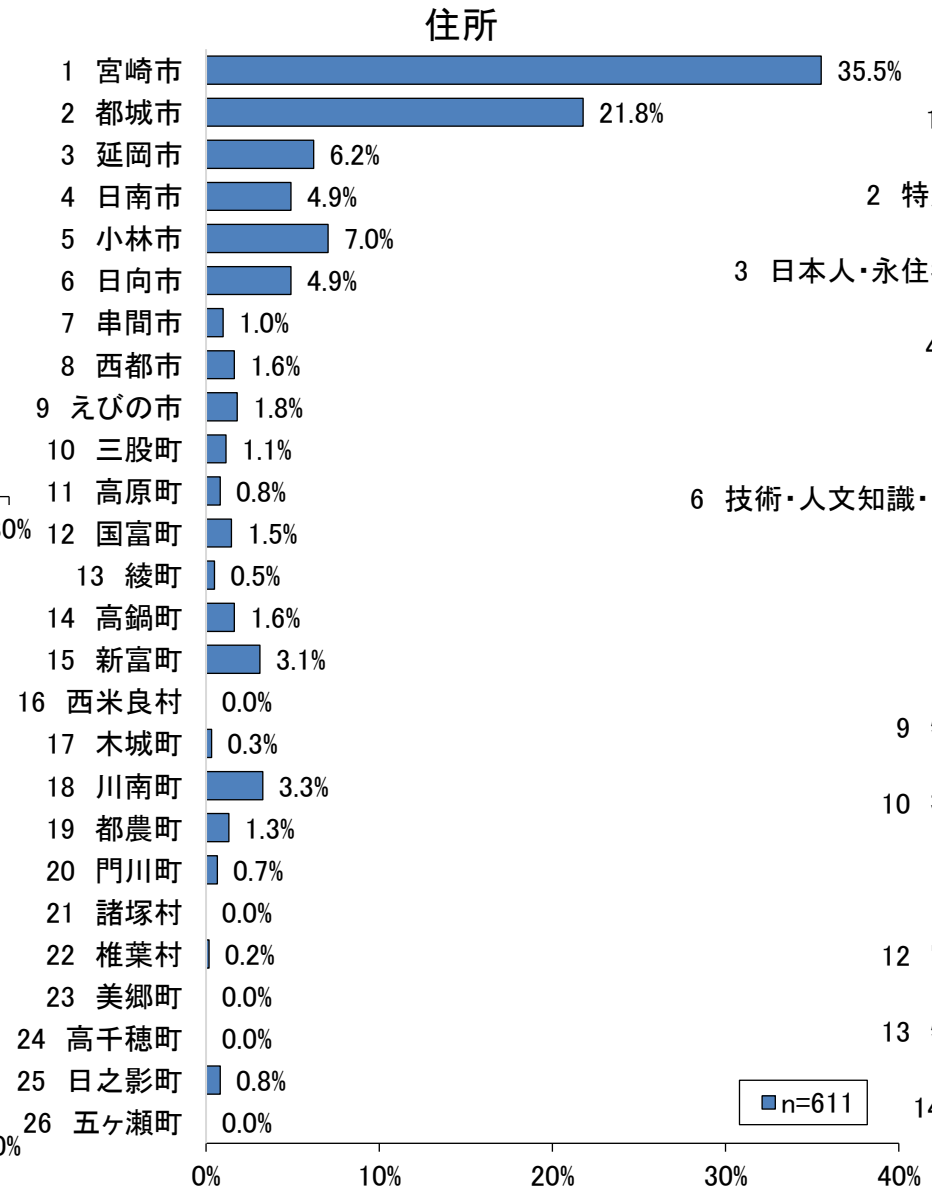
〇回収数（率）

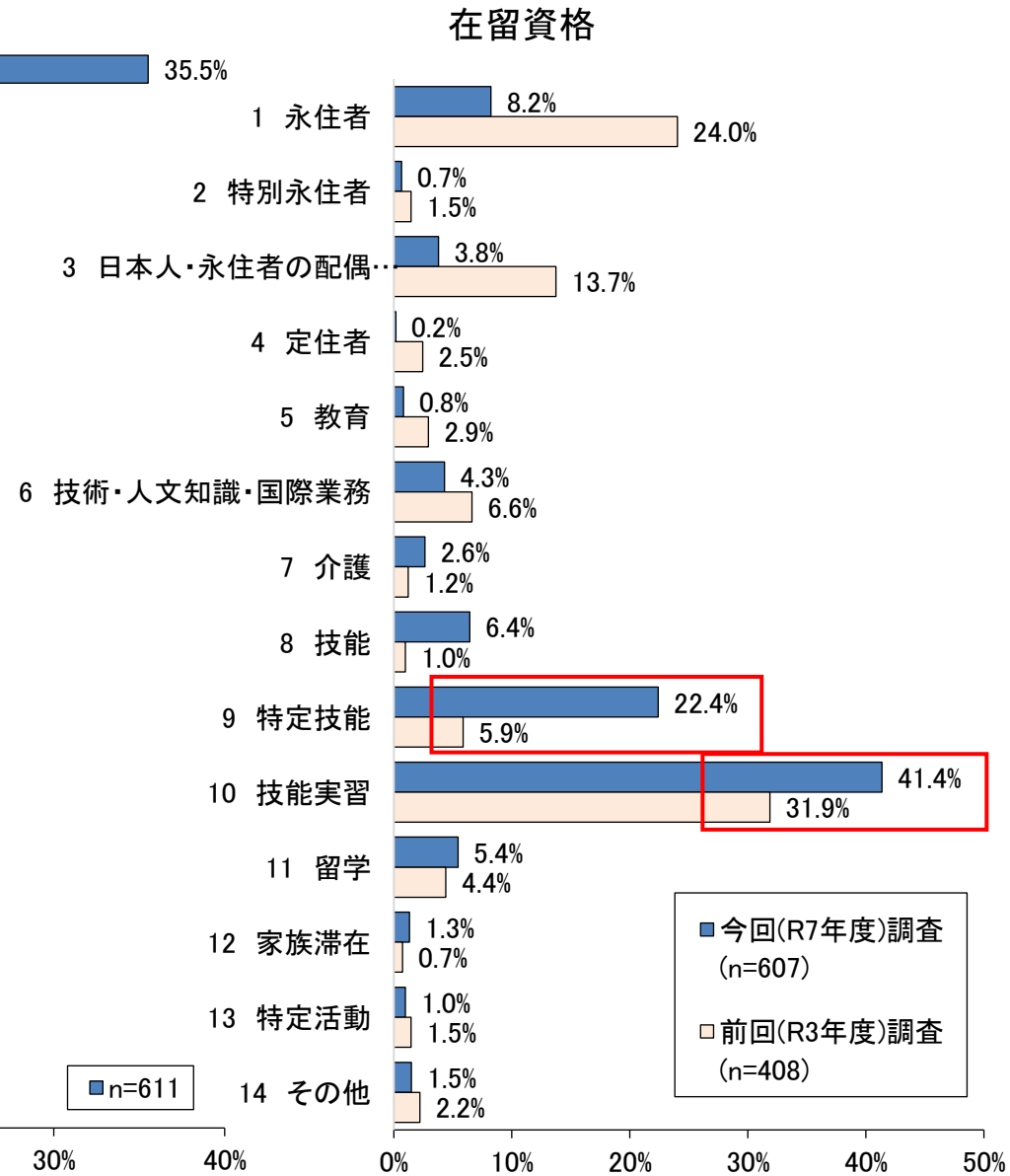
回収率：30.7%（回収数：614件/配布数：2,000件）

回答者の属性


年齢
1 18～19歳 2.0%
2 20～29歳 63.6%
3 30～39歳 21.8%
4 40～49歳 5.9%
5 50～59歳 3.4%
6 60～69歳 2.1%
7 70歳～ 1.1%
n=610
0%
20%
40%
60%
80%

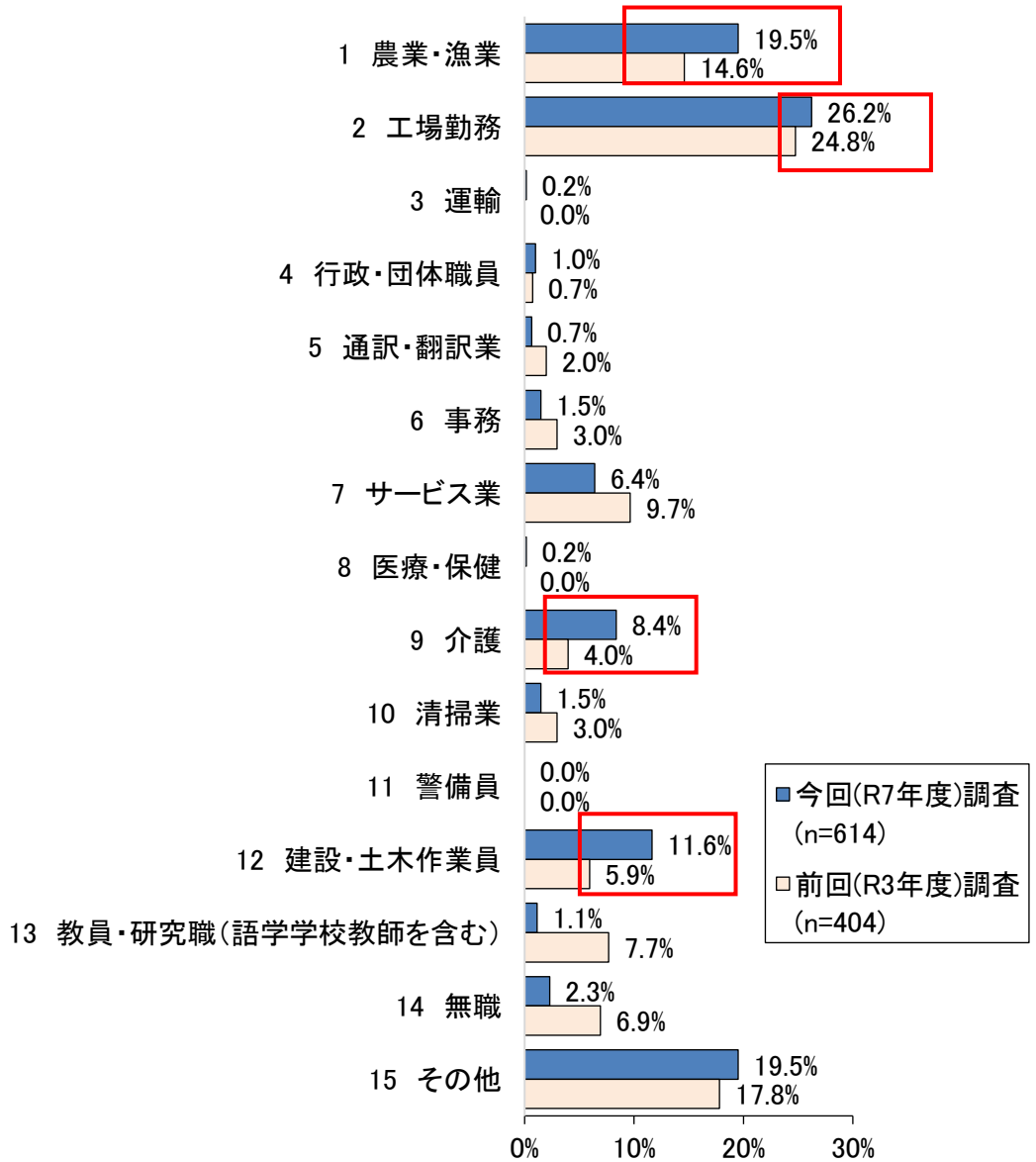

国籍
1 ベトナム 20.0%
2 中国 3.6%
3 フィリピン 10.3%
4 インドネシア 32.6%
5 韓国 2.0%
6 ミャンマー 15.6%
7 ネパール 6.4%
8 カンボジア 0.8%
9 アメリカ 1.1%
10 その他 7.5%
n=610
0%
10%
20%
30%
40%


住所
1 宮崎市 35.5%
2 都城市 21.8%
3 延岡市 6.2%
4 日南市 4.9%
5 小林市 7.0%
6 日向市 4.9%
7 串間市 1.0%
8 西都市 1.6%
9 えびの市 1.8%
10 三股町 1.1%
11 高原町 0.8%
12 国富町 1.5%
13 綾町 0.5%
14 高鍋町 1.6%
15 新富町 3.1%
16 西米良村 0.0%
17 木城町 0.3%
18 川南町 3.3%
19 都農町 1.3%
20 門川町 0.7%
21 諸塚村 0.0%
22 椎葉村 0.2%
23 美郷町 0.0%
24 高千穂町 0.0%
25 日之影町 0.8%
26 五ヶ瀬町 0.0%
n=611
0%
10%
20%
30%
40%

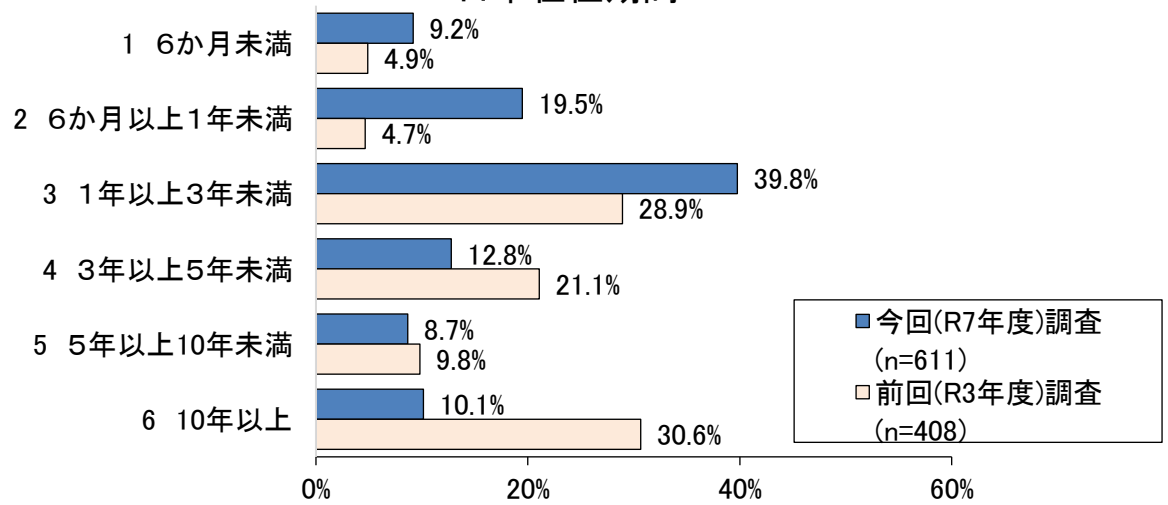

在留資格
1 永住者 8.2% 24.0%
2 特別永住者 0.7% 1.5%
3 日本人・永住者の配偶… 3.8% 13.7%
4 定住者 0.2% 2.5%
5 教育 0.8% 2.9%
6 技術・人文知識・国際業務 4.3% 6.6%
7 介護 2.6% 1.2%
8 技能 6.4% 1.0%
9 特定技能 22.4% 5.9%
10 技能実習 41.4% 31.9%
11 留学 5.4% 4.4%
12 家族滞在 1.3% 0.7%
13 特定活動 1.0% 1.5%
14 その他 1.5% 2.2%
今回(R7年度)調査 (n=607)
前回(R3年度)調査 (n=408)
0%
10%
20%
30%
40%
50%

回答者の属性

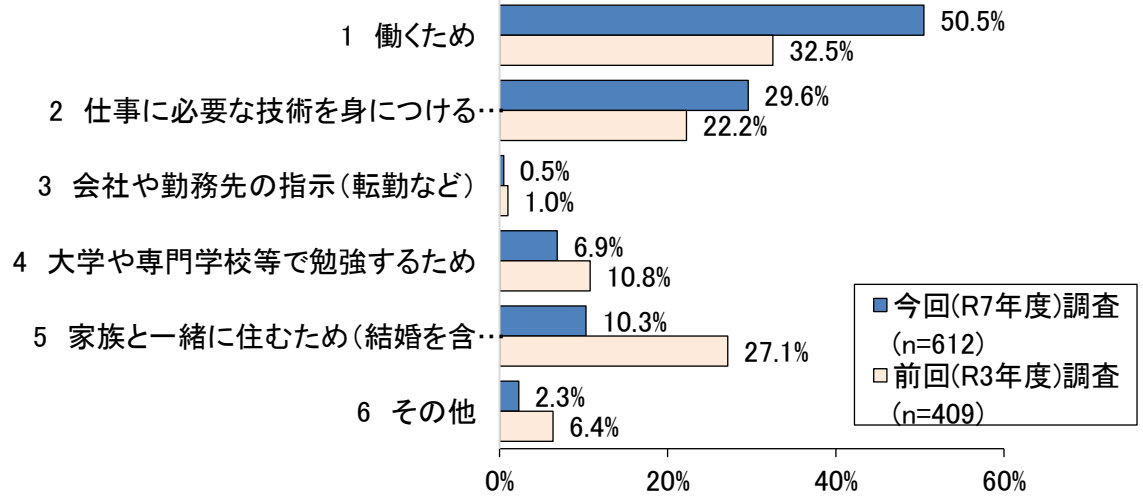
仕事



日本在住期間



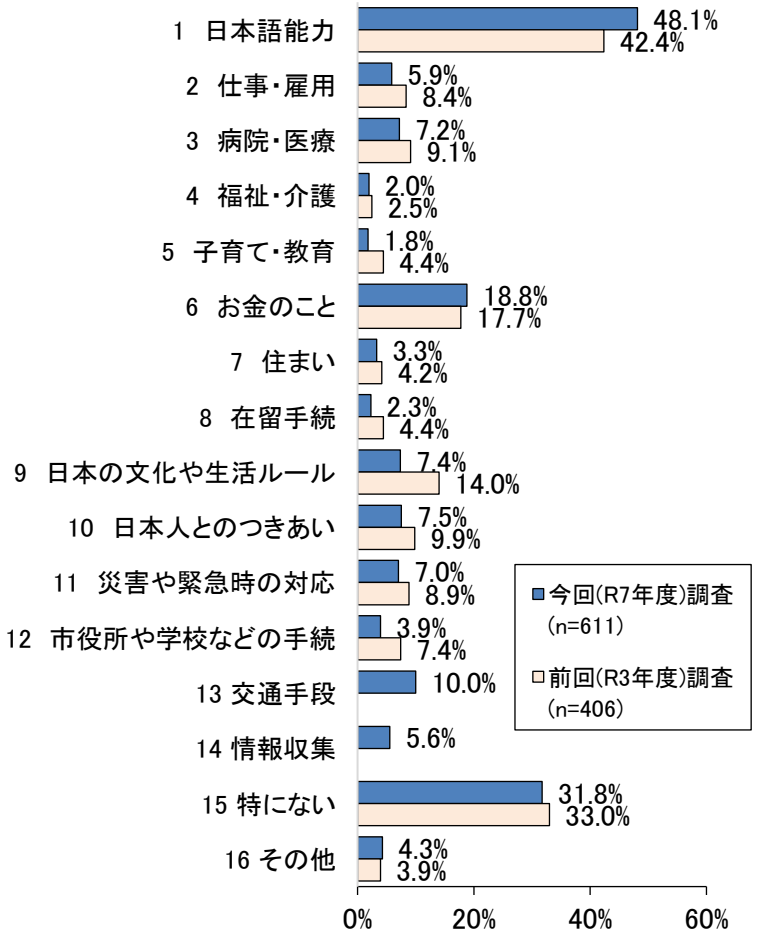
来日した理由



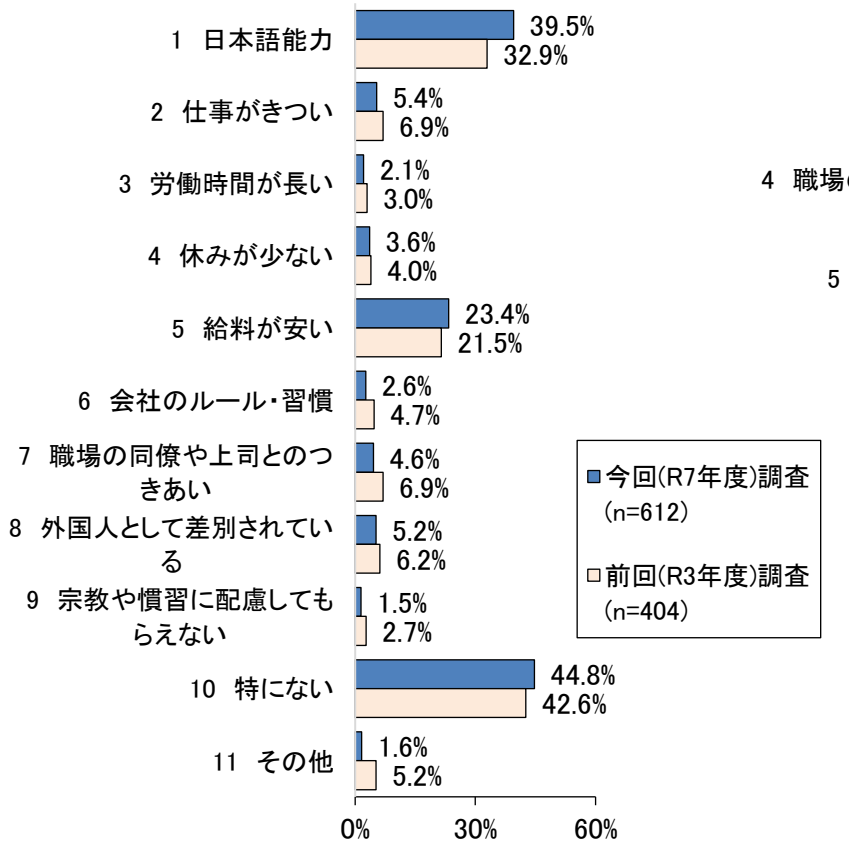
仕事や生活について

○　困っていることについて、生活・仕事いずれにおいても「特にない」との回答が3割以上程度ある一方、日本語や金銭面を挙げる声が一定数あり、特に生活者としての日本語能力に困難を感じているとの意見が目立つ。
○　相談先として、母国出身の友人・知人、所属先の関係者、家族・親族が多く、行政や公的機関を挙げる声は少数。

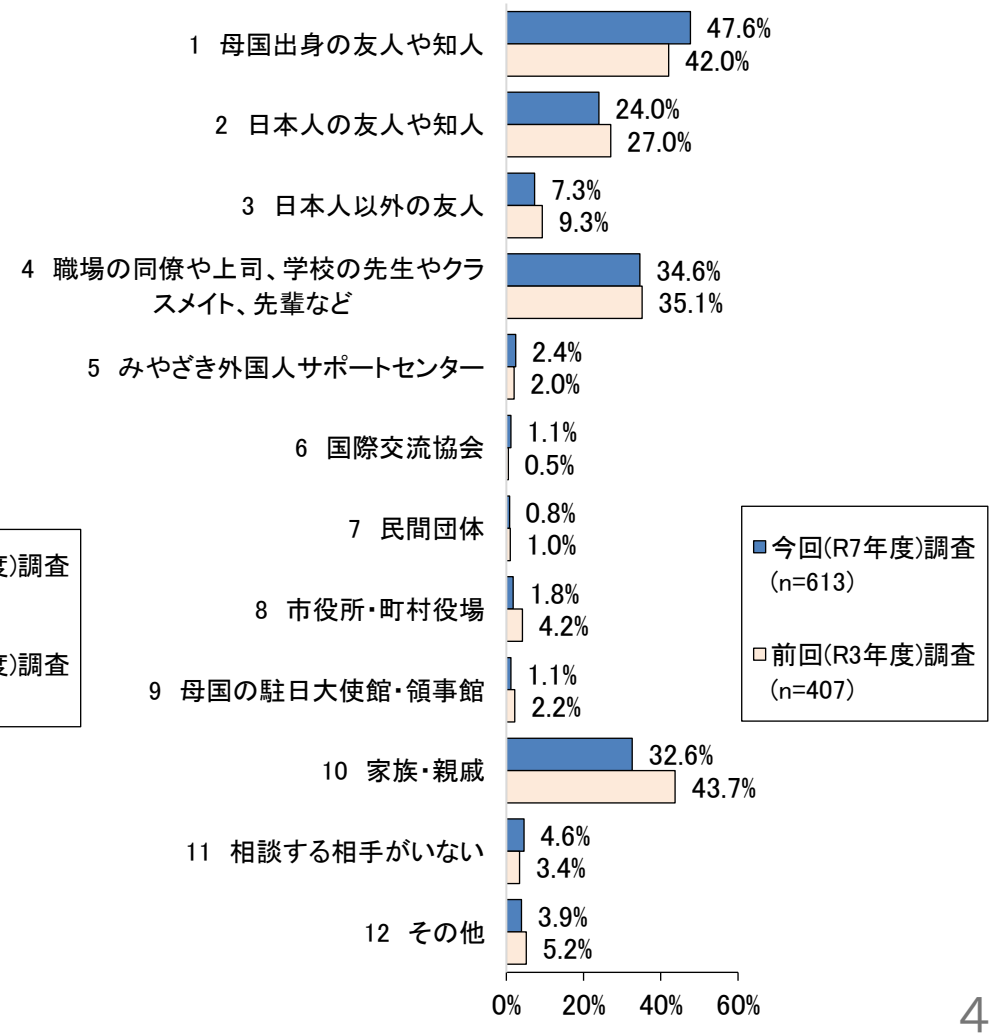
Q2　生活する上で困っていることは何ですか。（あてはまるもの全てに○）



Q3　仕事をする上で困っていることは何ですか。（あてはまるもの全てに○）



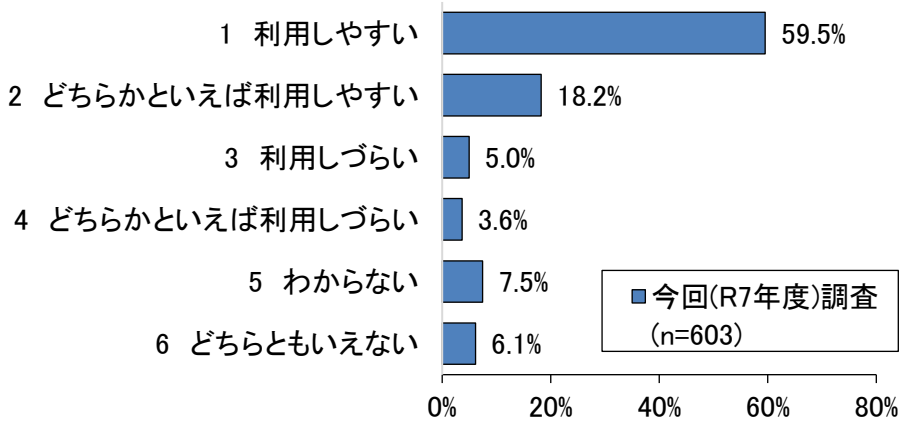
Q4　生活や仕事で困ったときは、誰に相談しますか。（あてはまるもの全てに○）



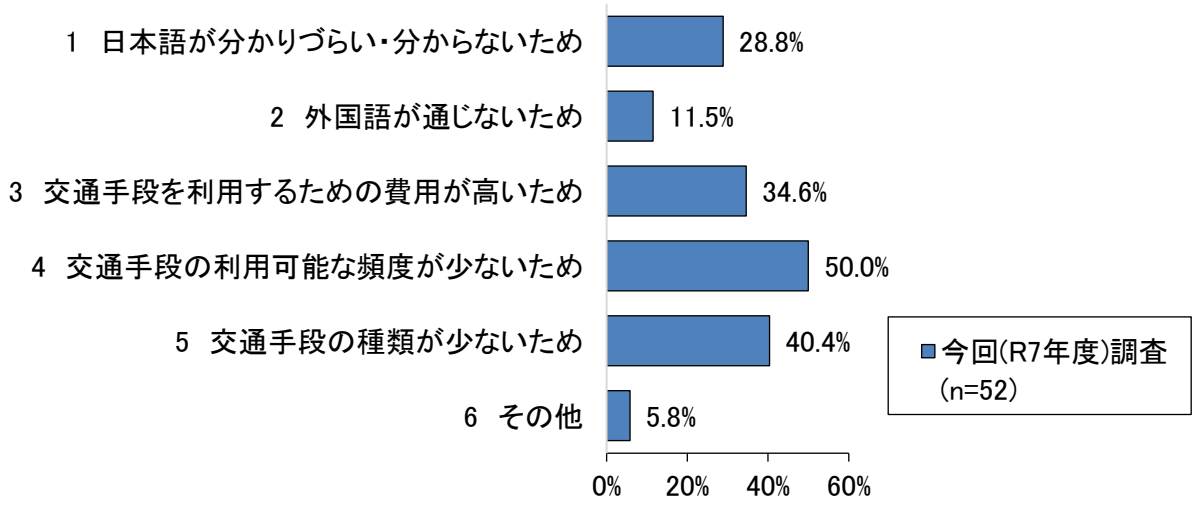
交通や医療について

○ 公共交通機関について、6割近くが利用しやすいとした一方、利用可能頻度や種類の少なさ等がネックとなっている。
○ 医療面の困りごとについて、半数以上が特にないとした一方、医療機関情報や病院でのコミュニケーション等を挙げる声もあった。

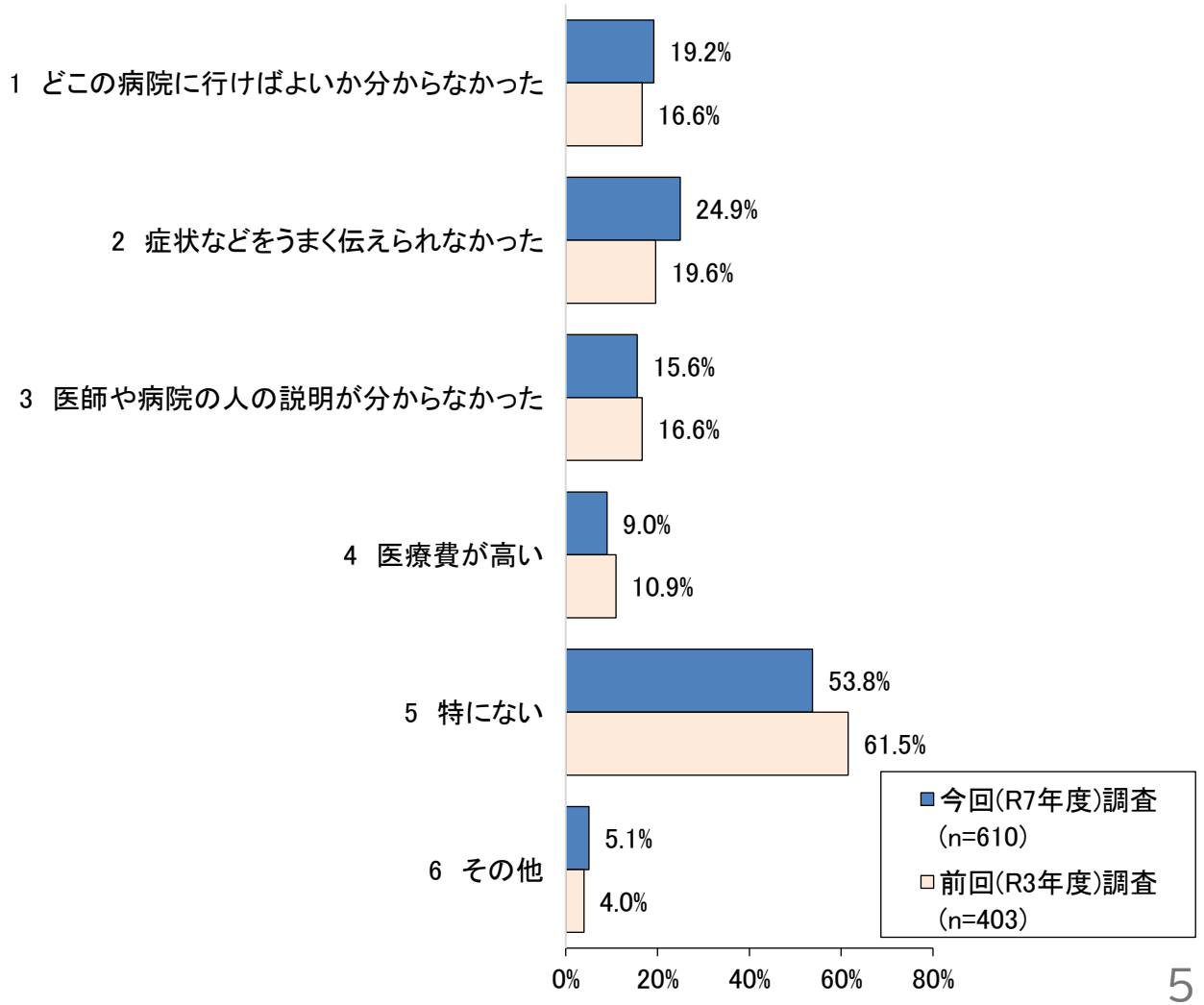
Q13 あなたの国と比べて、公共交通機関(バスや電車など)は利用しやすいですか。(○は 1つ)



<Q13で「利用しづらい」「どちらかといえば利用しづらい」を選択した人>
Q13−1 それは、なぜですか。(あてはまるもの 全てに○)



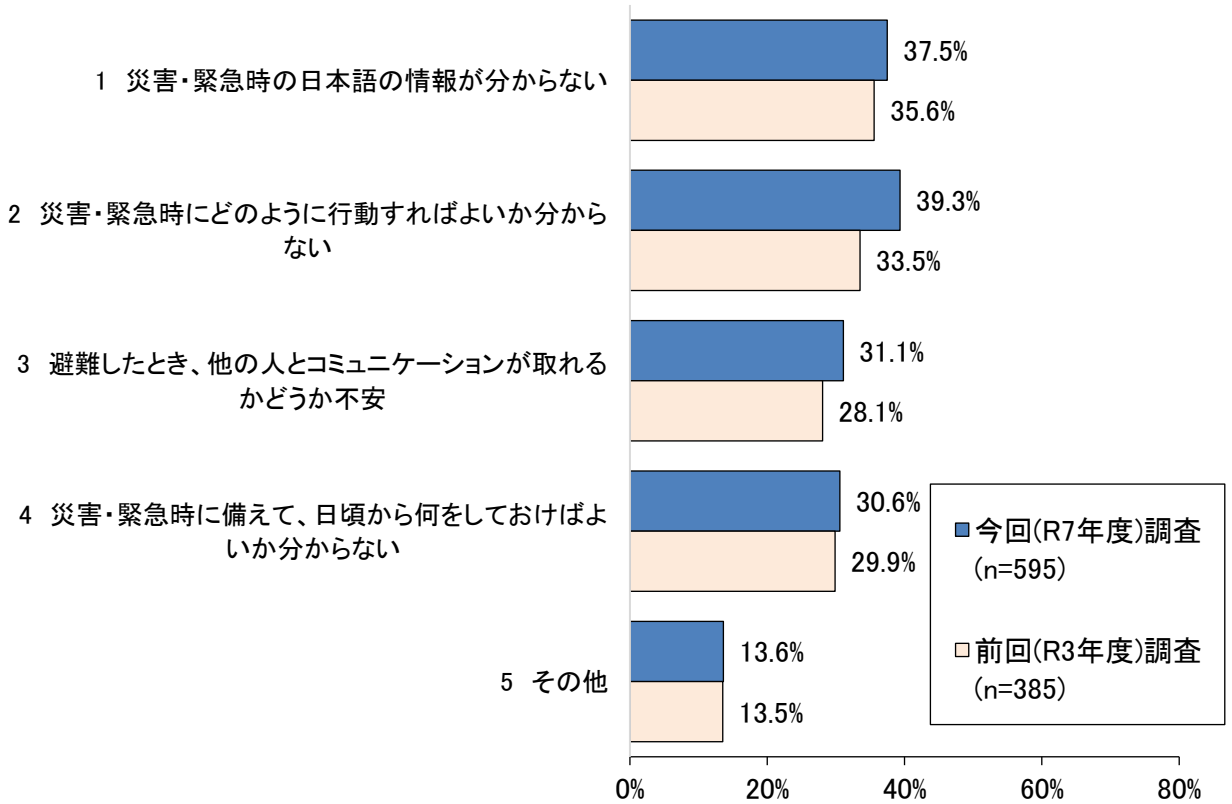
Q14 あなたや家族が病気になったとき、困ったことがありましたか。



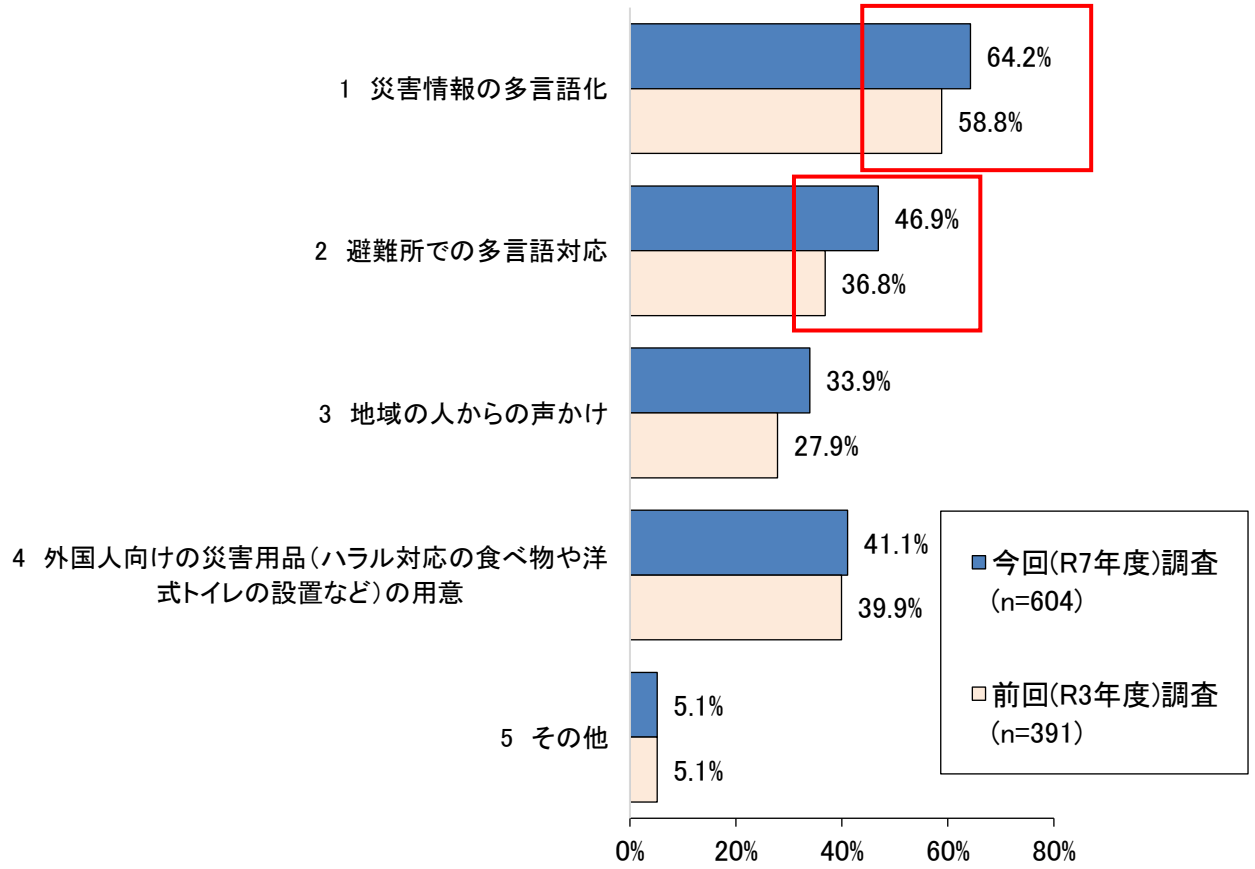
災害について

○　災害時の不安事について、日本語情報やコミュニケーション、災害時の行動、日頃の備え等、幅広く挙がった。
○　災害時サポートについて、多言語対応に関するニーズが増加したほか、ハラル食品等外国人向け災害用品についても一定の要望が挙がった。

Q15　災害時に不安なことは何ですか。（あてはまるもの全てに○）



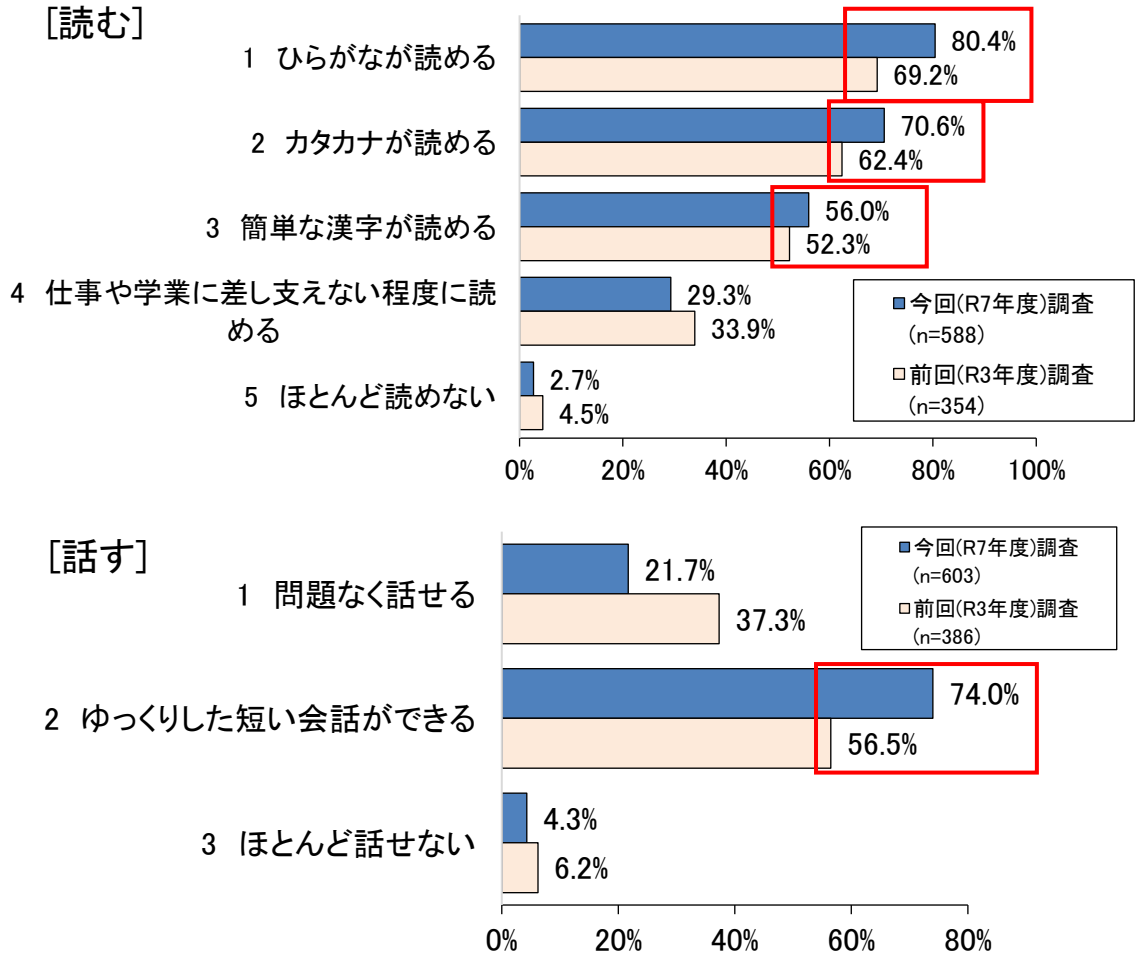
Q16　災害時にどのようなサポートがあればよいと思いますか。（あてはまるもの全てに○）



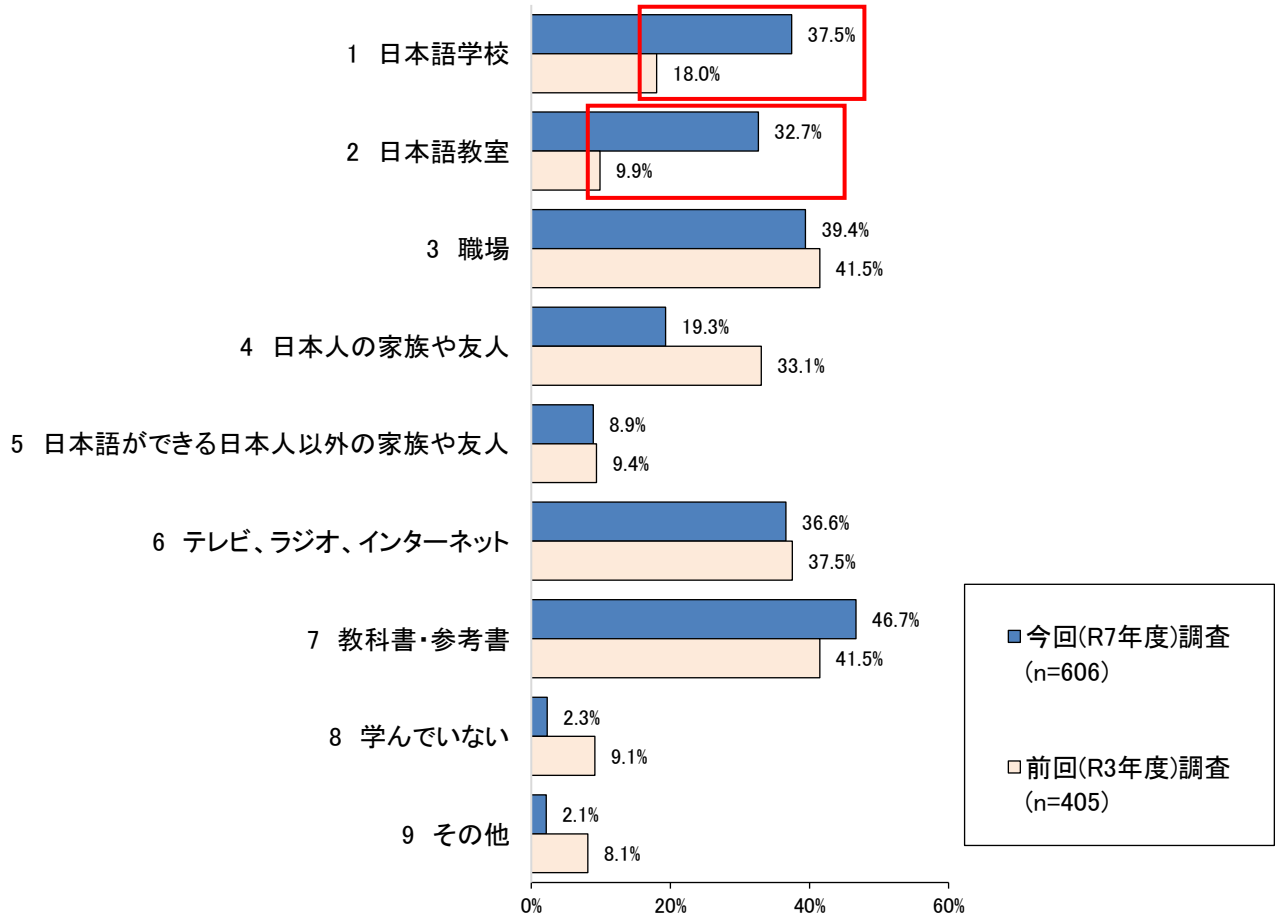
日本語について

○　日本語能力について、「ひらがな」、「カタカナ」、「簡単な漢字」、「ゆっくりした短い会話」が向上した一方、「仕事や学業に差し支えない程度に読める」の割合が減少。
○　日本語学習方法について、日本語学校や日本語教室の割合が大幅に増加。

Q17　あなたは、日本語がどのくらいできますか。（[話す]は○1つ、[読む]はあてはまるもの全てに○）



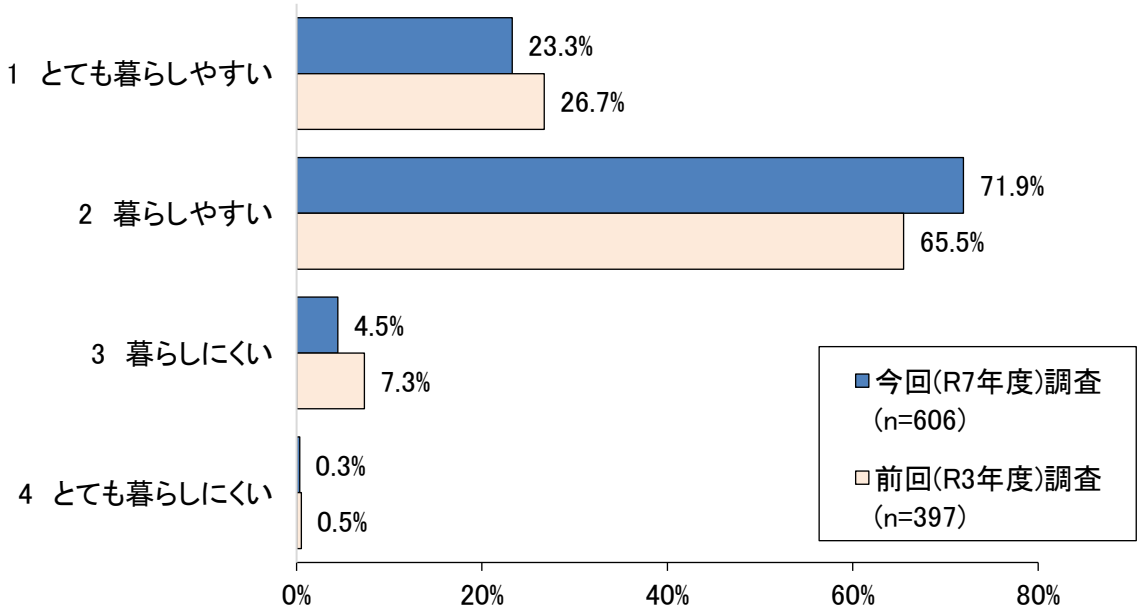
Q18　あなたは、どうやって日本語を学んでいますか。（あてはまるもの全てに○）



宮崎について

○ 宮崎は暮らしやすいと感じる割合が上昇(92.2%⇒95.2%)するとともに、日本人に国際理解を求める声も減少。
○ 日本語・日本文化の学習機会をはじめ、引き続き幅広い取組が求められている。

Q20 あなたにとって宮崎は暮らしやすいと感じますか。(○は1つ)



Q21 宮崎を暮らしやすくするために、どのような取組が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

